



インスピレーションになるう

宇都宮ロータリークラブ会報

Rotary



宇都宮ロータリークラブ 会長 岡崎善胤・幹事 熊本勇治 ID#13888

テーマ「ロータリーは何をするか？」各々のロータリーの価値を行動しましょう！

国際ロータリー会長 バリー・ラシン テーマ BE THE INSPIRATION

国際ロータリー第2550地区 2018-19年度ガバナー 伊東永峯

テーマ「ボールを語ろう…それは一人のインスピレーションから始まった」

例会日 火曜日 12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町 5-12

事務所 宇都宮市江野町 1-12 栃木実業ビル2F Tel 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2019年) 平成31年4月2日 No 34 2018~2019年度 (第3283回会報)

会員数 103名 出席者数 77名 出席率 77.8%

ビジター紹介 (親睦活動委員会 明賀一博委員長)

駒崎茂様 (ゲストスピーカー)

会長挨拶 (岡崎善胤会長)

例会にお集まり頂き有り難うございます。本日は4月の第1例会ですので理事会が開催されました。昨日、5月からの年号が令和と発表され良いなと感じましたが、皆様はそれぞれに感じられたかと思いません。今月4月23日に今年度第2回目のクラブフォーラムが開催されます。ロータリーの活動・RIや地区クラブとの位置づけ等を先輩の方々からもご意見を頂き、ロータリークラブをより理解出来るフォーラムにしたいと考えております。是非、ご参加を頂きたいと思っております。後半には親睦でビールセミナーの楽しみもあります。宜しくお願い致します。

誕生祝 (親睦活動委員会 伊原修副委員長)

木村正樹会員 関口快太郎会員 針谷隆之会員 渡邊肇会員 大澤章利会員 天谷健二会員 飯村悟会員

結婚祝 (親睦活動委員会 伊原修副委員長)

熊本勇治幹事 齋藤一郎会員 久保井一臣会員 毛塚武久会員 助川通泰会員 旭野好紀会員

加藤幸夫会員 菊池芳幸会員 三井勝滋会員 戸田博之会員 池田剛会員 田嶋久登志会員 草野英二会員

奥様誕生祝 (親睦活動委員会 伊原修副委員長)

太田敏子様 荒井あや子様 柴田しのぶ様 熊本直子様 三柴都市江様 藤井幸子様 池田真理子様

小泉静子様

幹事報告 (熊本勇治幹事)

本日理事会の承認事項です。4月1日現在会員数103名(他名誉会員2名)です。退会者は渡邊定夫様、入会申請者1名です。協議事項は、クラブ奉仕委員会より4月23日クラブフォーラム開催の件、担当はクラブ奉仕委員会と親睦活動委員会です。又親睦活動委員会より、5月6日市内10ロータリークラブ対抗ゴルフ大会開催の件です。社会奉仕委員会より、サンマ事業の募金の使い道についてです。約15万円の残があり、春の足尾の植樹祭と法人会が主催しておりますチャリティー映画にそれぞれ7万円拠出させていただきます。国際奉仕委員会よりの消防自動車2台寄贈を決めさせていただきました。青少年奉仕委員会では、4月27日足尾の植樹祭へインターアクト30名が参加予定です。6月9日高校生ライラに学生が参加します。4月6日の親睦ゴルフ大会の件につきましては、後ほど親睦委員会よりご連絡があります。

インターアクト委員会報告 (永井宏樹委員長)

3月26日から29日迄、台湾研修に行ってきました。文星芸術大学附属高等学校生3名、宇都宮女子

高等学校生 4 名、顧問の先生 2 名です。来月両校のインターアクターの生徒さんに例会へ来て頂き、報告を頂きます。台湾のロータリークラブの方から、素晴らしい歓待を受けました。受付にお菓子がありますので、ご賞味下さい。

親睦活動委員会（明賀一博委員長）

4 月 6 日（土）、当クラブの親睦ゴルフコンペです。ゴルフ出席予定 17 名、懇親会出席予定 15 名です。5 月 6 日（日）、市内 10 ロータリークラブ親睦ゴルフ大会です。当クラブから今の所 17 名の参加予定です。多くの方のご参加をお願い致します。4 月 23 日のクラブフォーラムでは、親睦活動についてお時間を頂いております。当日は、今年度の親睦活動と過去の活動等の意見交換の場と致します。その後は、金山さんのご協力を頂きましてビールセミナーをお楽しみ頂きたいと思っております。多くの方のご参加をお願い致します。

ニコニコボックス委員会（菊地正敏委員長）

誕生祝：関口快太郎会員 秋本薫会員 大澤章利会員 飯村悟会員 木村正樹会員 渡邊肇会員
荻山猛彦会員

結婚祝：熊本勇治幹事 齋藤一郎会員 毛塚武久会員 旭野好紀会員 加藤幸夫会員 草野英二会員
田嶋久登志会員 三井勝滋会員 助川通泰会員

快出席祝：大矢裕啓会員 粟飯原悟会員 荻山猛彦会員

奥様誕生祝：秋本薫会員 田嶋久登志会員 柴田彰夫会員 荒井規雄会員 太田周会員 三柴富男会員
小泉芳久会員 藤井昌一会員 熊本勇治幹事

職業奉仕委員会・100 年委員会合同会議残金：

和田均会員 100 年委員会事業の内容について、1 年間の協議会と反省会を致しました。

後日、次年度に結果を引き継ぎます。会議に出席された委員の方に御礼を申し上げます。

大矢裕啓会員：52 歳からスタートさせた通信制大学に 6 年かけて卒業する事が出来ました。若い時代を含め足かけ 10 年という長期に渡った学生生活を振り返り、学びの大切さを知ることが出来ました。今後、これらを活かして社会貢献したいと思っております。

プログラム紹介（プログラム委員長 岸本卓也委員長）

本日の卓話は、いよいよ 1 年数ヶ月後に迫った東京オリンピック・パラリンピックについてです。パラリンピックに出場を予定されている又強化選手としてトレーニングに励んでいらっしゃいます駒崎茂さんをお招きしております。駒崎さんは埼玉県川口市のお生まれです。小学校 5 年生の時、栃木県の壬生町に移られました。現在のお住まいは宇都宮市です。茨城県古河市にある医療法人 仁寿会 総和中央病院地域連携推進室に勤務されております。2003 年 41 歳の時に交通事故にあわれ両足を失っておられますが、リハビリやトレーニングをされて数々の競技に出場されています。2011 年からボート競技も始められ 2014 年韓国仁川（インチョン）のアジアパラ競技大会で銀メダルを獲得されました。又 2016 年リオデジャネイロのパラリンピックボート競技には、日本代表選手として出場されました。今日のテーマは、Road to Tokyo 東京への道のりです。宜しくお願い致します。

卓話「Road to Tokyo」～東京への道のり～

茨城県古河市 医療法人 仁寿会 総和中央病院 地域連携推進室
駒崎 茂 様

皆さん、こんにちは。只今ご紹介を頂きましたリオ・パラリンピックボート競技日本代表の駒崎です。本日は、歴史ある宇都宮ロータリークラブの皆さんにお会い出来ることを楽しみにして来ました。私は日頃から出合いを大切に思っています。それは偶然ではなく、必然的に出会うことになっていると思うからです。実は、私の兄と岡崎会長は同級生です。私が学生の頃からの知り合いです。今日、20年ぶり位にお会いしました。私は平成15年交通事故にあい両足の切断を余儀無くされました。当時、経営していた飲食店を閉めました。その後様々な応援を頂き、現在茨城県にある総和中央病院の地域連携推進室で仕事をしております。今日は「Road to Tokyo」東京への道のりというテーマでお話をさせていただきます。内容については、健常者から障害者になって、入院の様子や障害者スポーツとの出会い、リオ・パラリンピック、東京パラリンピックの順番でお話させていただきます。



先ず、健常者から障害者になってという事です。昭和37年8月28日、埼玉県川口市生まれの56歳です。小学校5年生の時、おもちゃの町に引っ越してきました。生まれた時から両親は商売をしていたので、子供の頃から私は自立をしていたと思います。24歳で結婚をしました。3人の子供に恵まれ、当時お好み焼き店を経営していました。平成15年7月41歳の時、交通事故で両足を失いました。私はバイクに乗っていてダンプカーと衝突をし、18メートル位飛ばされダンプカーは民家に追突しました。季節は梅雨で、ランニングに短パン姿でバイクを運転していた為、傷口から菌が入り、先生方の懸命な治療にも関わらず4日後に両足切断になりました。当時、家族には「何とか片足を残したい」と説明があったのですが、残せると思っていた右足の菌がひどく、骨盤もずれる状態になっていました。これは入院中の仲間の様子です。そこには私と同じ障害を持った3人の人がいました。3人とも20歳代でした。大学生2人は事故で、1人の女性は病気による切断でした。彼らは現実を受け止め、彼らの前向きにリハビリをする姿に私は勇気をもらいました。そして自分の為、家族の為に一生懸命リハビリに励みました。家族は以前と変わらない生活を受入れ、私をサポートしてくれました。私は、感謝をしています。今、日常生活で手伝ってもらう事は殆どありません。厳しくも、やさしい家族です。リハビリを始めた頃、私の股関節はとても硬くて「おそらく、義足は困難であろう」と言われ、「一生、車椅子の生活」と言われていました。その時は、立つことも出来ませんでした。自分の将来について考えた時、諦める事ばかりが頭に浮かびました。同時期に入院をしていた片足切断の仲間で義足を作っている様子を見学しました。義足に縁が無い私のイメージが一新しました。私は歩く事を諦めかけていましたが、義足を付けてもう一度頑張ろうと決心し、リハビリの先生に聞きました。「今迄私と同じように切断をした人は、何人位いましたか？」と。「約20名です。ただ杖とか何も持たずに歩けた人は、誰もいません」と言われました。「だったら自分が・・・」と、厳しいリハビリをしました。その当時、長男はインターハイの出場権を得ていたので「子供の為にも義足を付けて応援に行きたい」と厳しいリハビリを始めました。その頃栃木県のスタンドはバリアフリーでは無かったので、歩けなければ応援に行けませんでした。車椅子での応援は厳しく、杖を使ってでもよいので義足で行きたいとリハビリを始めました。結果、島根のインターハイへ自力で応援にゆく事が出来、目標を達成出来ました。この写真は障害者スポーツの出会いという事で、初め健康のために水泳から始めました。健康の森で毎日泳いでいると、ある日1人の女性から声をかけられました。その女性は私と同じ障害を持った方で「そんなに泳いでいるのなら、大会に出てみたら如何ですか？」と言葉を掛けられた事が私の障害者スポーツとの出会いです。当時、栃木県の障害者スポーツでは水泳チームは無く、茨城県のチームに入れてもらいました。練習は、スパルタ式でした。チームにはパラリンピックのメダリストがいて、そんな中での練習でどんどん強くなって行きました。「支えてくれたのは家族だけでは無く、自分は周りの人皆に支えてもらっている。いま頑張らなくてどうする！」という気持ちで、更に目標を持つようになりました。大会では障害毎にクラス分けがありま

す。それまで自分の障害は凄く重いと思っていましたが、水泳大会に出ることによって自分の障害は軽いと気がつきました。障害はS1からS10まで10段階あります。自分の障害は軽い方から3番目、びっくりしました。様々な障害を持った人に出会ったことは、自分だけの狭い世界だけでは無く、広い視野を持つ事の大切さに気付く良い機会となりました。私は、益々障害者スポーツのとりこになりました。そして、全国障害者スポーツ大会に出場し50メートルの部で、大会新記録で優勝する事が出来ました。2011年49歳の時、水泳仲間でボート競技をしている友達に誘われボート競技を始めました。

次に障害者スポーツの魅力という事で「出会い」があります。障害も健常も関係なく、スポーツを通じて多くの方々と知り合う事が出来ます。今回、リオ・パラリンピックに選ばれてから友人が多くなりました。何年も会っていない知人・友人から連絡をもらったりしました。大勢の人から感動の言葉・激励の言葉を掛けて頂きました。まだ見たことの無い世界を教えてくれたのが、スポーツの魅力だと思います。障害者と言うと出来ない事に目を向けがちですが、スポーツを通じて自分の限界に挑戦出来ます。様々な可能性が広がってゆきます。出来る事が1つ増えるとそれだけで世界が変わり、新たな目標が生まれてきます。私にとってパラリンピック出場は夢の様なものでした。1つの事をクリアすることで、次にどんな世界が待っているのか？どんな楽しみを与えてくれるのか？とスポーツに夢中になっていきます。様々な障害を持つ人と出会うことで自分の障害と向き合う機会になり、お互い切磋琢磨して励まし合う事が出来る事がスポーツの魅力だと思います。常にライバルはいます。そのライバルは仲の良い友人、あるいは自分自身かもしれません。苦しい思いをしたり、逆に喜びを分かち合う事ができます。ボート競技の特徴は、2人の息を合わせる必要があります。トップに立つことが7割方、有利になると言われています。ずっと後ろを向いて2000メートル漕ぎますので、先に行かれると最後まで全力で漕がなければならないという競技です。動画のボート競技を見て下さい。

-----ボート競技動画-----

紹介をしたのは、アジアパラリンピックです。金メダルを取った時の表彰台での写真です。左は、フランスでの世界選手権に出場した時の写真です。右は、イタリアで6位になりリオ・パラリンピックの出場権を得た時の写真です。こちらは、リオ・パラリンピック22競技132名の日本選手団壮行会の様子です。ボートの場合は、健常者障害者が同時に壮行会、世界選手権大会も一緒にやります。他の競技ですと、オリンピックとパラリンピックは別々になります。次の写真は私のスポンサーの総和中央病院の院長先生と一緒にの写真です。こちらは、代表に選ばれてから栃木県福田富一知事からの激励を頂きました。又福島県内堀知事からも合宿時激励を頂きました。私の出身地埼玉県上田知事からも激励を頂きました。帰ってきてから佐藤宇都宮市長から表彰を頂きました。この横断幕はリオ・パラリンピック出発の際、作新学院中等部・高等部の生徒さんに応援して頂きました。これは私の職場です。これは茨城県古河市の駅前です。応援を頂きました。これは東京の大江戸線です。リオ・パラリンピック開催中に22の駅構内でポスターを貼って下さいました。これは山手線です。「ひたすら悲鳴を上げて、身体が悲鳴を上げて、ひたすら勝ち続ける」というポスターが掲載されました。これはリオ・パラリンピックの開会式の様子です。これは選手村の様子です。選手村には当時スポンサーだったマクドナルドがあり、24時間選手とスタッフが無料で食べられました。これはボートコースの様子です。オールは、日の丸カラーになっているのが特徴です。

次は東京オリンピックとパラリンピックという事で、これは今国立競技場を建設しているところです。2020年7月24日から8月9日の17日間、33競技、339種目、42会場で開催されます。パラリンピック開催は、8月25日から9月6日迄の13日間、22競技、540種目が21の会場で開催されます。これが海の森水上競技場です。今後の目標は、今年茨城県で国体が開催されます。出場種目は、水泳競技を目標としております。2020年の東京パラリンピックでは、ボートで優勝することを目標としております。2022年は、栃木で国体が開催予定です。ボート競技はありませんので、水泳で出場したいと思っていま

す。一期一会、一生に一度という事です。人と人の出会いは1度限りのものという事で、事故にあった時、私を救ってくれたのは人との出会いでした。今日皆さんと出会えた事に感謝をしております。障害は個性であって、決して可哀想では無いと言うことです。視力の悪い人はメガネをかけるように、私は足が無くなったので義足を付けています。今日という日は、帰ってきません。感謝の気持ちを忘れずに、過ごしたいと思っています。私からのメッセージということで、夢は叶うということです。その為に小さな事でも目標を持って、1つ1つ課題を確実にクリアすることが夢の近道です。私の最初の目標は義足で歩きたいという身近なものでしたが、厳しいリハビリをクリアして最後まで諦めないで次のステップに進むことが出来ました。障害を持った時自分に出来ない事が多かったのですが、自分では限界を決めたくない・出来るようになりたい・あのようになりたい・時には挫折しそうになったり、そんな私を支えてくれたのは家族や友人、スポーツを通じて出会った仲間でした。沢山の人の支えられたからこそ努力をする事が出来ました。これからも私の夢を叶えていきたいと思っています。2020年東京パラリンピック出場を目指していきますので、皆様の応援を頂ければと思います。本日は、どうも有り難うございました。

4月卓話】

4月 2日(火)「Road to Tokyo」～東京への道のり～

駒崎茂様 茨城県古河市 医療法人 仁寿会 総和中央病院
地域連携推進室勤務

4月 9日(火)「とちぎの地酒で乾杯」

菊地正幸様 宇都宮酒造(株)代表取締役 栃木県酒造組合会長

4月 16日(火)「市政について」

佐藤栄一宇都宮市長

4月 23日(火) 夜間例会 クラブフォーラム

4月 30日(火) 休会

＝当日の食事＝



松花堂弁当
ノンアルコールシャンパン
味噌汁
コーヒー

会報担当：飯村 悟 会員

画像担当：三井 勝滋 会員